

三二六六番

春はるされば 花はな咲きををり 秋あき付けば 丹にのほにも
 みつ うまさけを 神かむ奈備山なびやまの 帯おびにせる 明あ日す
 香かの川かはの 速はやき瀬せに 生おふる玉藻たまもの うちなびき
 心こころは寄よりて 朝露あさつゆの 消けなば消けぬべく 恋こひしく
 も 著しるくも逢あへる 隠こもり妻つまかも

反歌

三二六七番

明あ日す香か川かは 瀬せ々せの玉藻たまもの うちなびき 心こころは妹いも
 に 寄よりにけるかも